

# プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

スリランカ民主社会主義共和国

ガンガ・イヘラ・コーラレ地域開発プログラム (LKA-196089)



ダスニちゃん(10歳)。チャイルド・スポンサーの方からの手紙を大切にしています

弟のステイーバ君(4歳)と遊ぶダスニちゃん

## チャイルドストーリー

### チャイルド・スポンサーとの交流によって、 村の外の世界に興味を持つようになったダスニちゃん

ガンガ・イヘラ・コーラレ地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域はスリランカの中央部に位置する美しい場所ですが、住民の生活には厳しい現実があります。ダスニちゃんの家族も、大工として働く父親の収入だけが頼りで、家計は厳しかったと言います。子どもたちが必要とする学用品さえ買ってあげられないことを、ダスニちゃんの両親は悲しく思っていました。しかし、ダスニちゃんと弟のステイーバ君がワールド・ビジョン(以下、WV)のチャイルドとして登録されたことで、学用品の提供を受けることができるようになりました。「支援を受けるようになって、子どもたちの教育は大丈夫と思えるようになりま

した」と母親のチュラニさんは喜んでます。ダスニちゃんは、日本のチャイルド・スポンサーの方から送っていただいた塗り絵や色鉛筆、きれいな手作りのしおりなどをとても大切にしています。自分が知らない日本という外国があることを知り、村の外の世界に興味を持つようになったダスニちゃん。「チャイルド・スポンサーの方が住んでいる国をもっと知りたいです」と言います。また、母親のチュラニさんはADPが実施する経営管理の研修に参加しました。習った知識を使って、小さな商売を始めてみたいと考えています。支援を受けて、ダスニちゃんの家族は将来に希望が持てるようになりました。

## 子ども発達プロジェクト

### 就学前教育の改善と、子どもたちのライフスキルの向上に取り組んでいます

地元の行政機関やNGOと連携し、幼稚園の教材や遊具の整備、教員のトレーニングを実施しました。その結果、64人が幼稚園の教員免許を取得し、さらに政府の定めた基準を満たしている幼稚園が2013年の50%から75%に増加

しました。これにより、就学前の子どもたちがより質の高い教育を受けられるようになりました。また、「子どもクラブ」の活動をサポートしたほか、「子どもの権利」についての啓発イベントを行い、259人の子どもたちが参加しました。



政府の基準を満たした幼稚園が **50%→75%** に増加



より良い幼児教育のためのワークショップに参加する幼稚園の教員たち



「子どもクラブ」が開催したシンハラ人、タミル人合同の新年のお祭りに参加する子どもたち

## 地域組織化プロジェクト

### 住民の自主性が育ち、ADPの活動に積極的に参加しています

ADPを実施する上で不可欠なのが、地域の人々が地域の課題を自分たちの課題として認識し、主体的に取り組むことです。2014年度はこれまでに設立した76の住民グループの育成に本格的に取り組み、マネージメント能力強化のトレーニングや、スリランカ国内の別のADPでの研修などを行いま

した。住民グループメンバーは積極的にADPの活動に参加するようになり、あるコミュニティでは、コミュニティセンターの修復を計画立案から実施まで、住民グループが行いました。人々の自主性が育ったことが具体的な成果となって表れています。



完成したコミュニティセンター。屋根と家具の費用はWVに支援してもらいましたが、残りは地域住民が負担して完成させました



危険で歩きにくかった道を改善するため、住民が主体となって計画を立てて資金を集め、一部WVの支援も得て完成させました



**76**の住民グループが活動しています

## 生活向上プロジェクト

## 子どもたちが健やかに成長するためには、親の収入の安定が不可欠です

親の生計向上と、子どもたちの栄養／健康改善に取り組んでいます。2014年度は42世帯に有機農法で行う家庭菜園のトレーニングを実施したほか、52世帯に家畜（鶏、乳牛）の支給とトレーニング、貯蓄グループの支援などを実施しました。その結果、年間を通して必要な食糧を確保できる世帯の割合が2013年の74%から80%に増加しています。また、特に栄養状態が悪い5歳以下の子どもたちを対象にした栄養改善プログラムを実施しました。



以前のように野菜を買わなくてもよくなりました。化学肥料を使っていない、安全で栄養価の高い野菜を子どもたちに食べさせることができます

家庭菜園で野菜を栽培するブラディーパさんの家族



養鶏を始めたシャンティさん。卵の販売により収入が増えました

子どもにとって栄養価の高い食事がどれほど大切か、以前はわかっていませんでした。学んだことを実践するようになってから、子どもたちの体重が増えました

栄養改善プログラムに参加し、子どもたちのための栄養価の高い食事について学んだディヌシャさん



\$ 必要な食料を確保できるようになった世帯が **80%**



## 地域の女性のストーリー

## 支援によって始めた縫製の仕事で家族を支えています

レヌカさんの家庭はかつて、日雇いで働く夫の収入に依存していました。しかし夫が手術を受けなければならなくなり、日雇いの重労働ができなくなってから、レヌカさんが家計を支えなくてはならなくなりました。夫の手術代も家計を圧迫しました。レヌカさんは茶畑で働き始めましたが、子どもたちを学校に通わせ、生活費を賄うのは容易ではありませんでした。

そのような時、2人の子どもたちがWVのチャイルドとして登録され、支援を受け始めました。以前縫製工場働いていたレヌカさんに、ADPはミシンを提供し、副収入を得られるように支援しました。「WVは自分の才能を活かす機会と勇気をくれました。将来はミシンをあと2つか3つ買って、縫製ビジネスを大きくしたいです」と夢を語るレヌカさん。ADPの活動を通して、子どもの健康や保護についても学び、今ではADPの地域ボランティアとしても活動しています。「私は小さい頃、学校の先生になりたかったのですが、学校に通い続けるお金がなくて実現できませんでした。子ども

たちにはしっかり勉強し、良い人生を送ってほしいです。WVの支援を受けるようになり、4人の子どもたちがみな学校を卒業できるという希望を持てるようになりました。ご支援に心から感謝しています」レヌカさんは明るい笑顔でたくましく家族を支えています。

私はシャツやブラウス、枕カバー、じゅうたんも作れます。作った商品は町で売っています



ADPからミシンの提供を受け、縫製の仕事を始めたレヌカさん（36歳）



## ADP スタッフ・インタビュー

**Q** ADPでどのような仕事をしていますか。

**A** プログラム・コーディネーターとして、ADPの年間計画、予算管理、事業のモニタリング、評価、報告などを担当しています。私たちスタッフは、地域に住む子どもたちや人々の要望に応えられているか、常に興味を持って取り組んでいます。子どもたちに役立つ支援が実施できるよう、定期的に地域を訪ね、チャイルドに会い、地域の関係者とネットワークを築くよう心がけています。

**Q** WVで働く上でのやりがいは何ですか。

**A** 地域の課題を明確化し、その解決策を見つけた時に喜びを感じます。自分の利益のためでなく、地域の人々に役立つ支援を届けるために働けることを嬉しく思っています。



ガンガ・イヘラ・コーラレADPスタッフ  
ウィジェスダラ・バンドラ (39歳)

## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



子どもたちのために開催された「夢を叶えよう」と題したイベント

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

## 会計報告

LKA - 196089

収支計算書 自 2013年 10月1日 至 2014年 9月30日

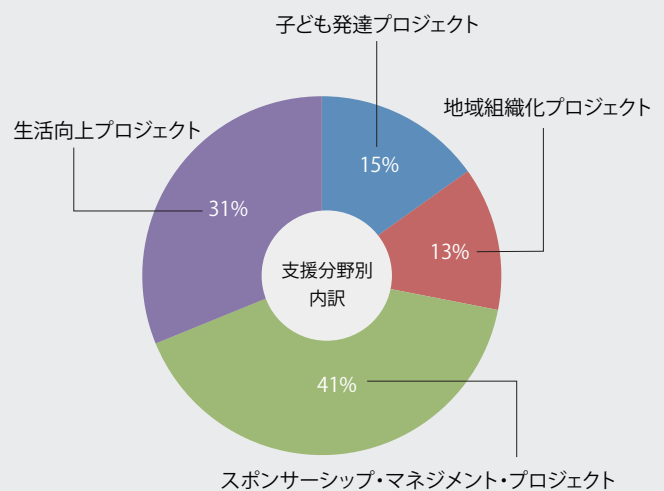
### プログラム支援額 (単位:円)

チャイルド・スポンサーシップ	22,115,219
当期支援額	22,115,219
前期繰越金	2,730,271
プログラム支援額合計	24,845,490

### プログラム支出額

子ども発達プロジェクト	3,712,085
地域組織化プロジェクト	3,178,718
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	10,007,925
生計向上プロジェクト	7,650,831

プログラム支出額合計	24,549,559
次期繰越額	295,931



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン  
電話 : 03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)  
FAX : 03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ : [www.worldvision.jp](http://www.worldvision.jp)  
e-mail : [dservice@worldvision.or.jp](mailto:dservice@worldvision.or.jp)